大橋（おおはし） 英夫（ひでお）さん（66歳）　飛島村元起

長く続けていける農業を

一町七反の農地でホウレンソウとネギを栽培する大橋さん。長年この土地で農業を続けてきました。「農学校を出て実家の畑を継いだのが二十歳の時。ネギはだいたい40年、ホウレンソウは30年栽培しています」。

大橋さんが大事にしているのはいかに労力をかけずに作業を行うか、負担の少ない形を模索しながら栽培を行っています。

「農業は自然を相手にしています。特に露地栽培では天気や天候の影響も大きい。雪や雨に対して事前に備えられるよう、普段は余裕を持ったスケジュールが大事になります。個人でやるので自由な時間は作れますが、それだけに備えることも多いです」。大橋さんは現在4種類のホウレンソウを栽培しています。出荷の行われる11月から3月まで一定の量で収穫が行えるよう、これらを時期をずらして播いたり、元肥のみで育てられる肥料をつかうことで追肥の手間をなくすといった工夫を行っています。

「自分の所属している飛島蔬菜組合はもともと100人以上いた組合員が、40人くらいまで減り、使わなくなった畑の世話を任されることもあります。広い農地で妻と息子と三人。いつまでも農業を続けていくことが今の目標です」と大橋さんは話します。楽しみについて伺うと、組合の仲間との交流だと話す大橋さん。「例えば農薬の使用に関する規程については産地としての信頼にもつながりますから、情報の共有や栽培履歴の確認を全体で行うことはとても重要です。知識を得たり、他の組合員のやり方を参考にすることも多い。ただ、それと同じくらい、農業に関わる仲間がいるというのも大切で、勉強会や他産地の視察旅行は楽しみでもあります」。

大橋さんが栽培において特に気を付けているのは土壌です。「ホウレンソウもネギも根が長くのびる野菜なので水はけがよく、柔らかい土壌が必要です。しかし、飛島は元々埋め立て地で水はけがよくない。自分の所では畝の真ん中を高く、緩やかな山形に盛ることで水が流れやすくなるようにしています。また、有機肥料を使うと柔らかい良い土になるので、木材チップや鶏ふんの他に、農協のカントリーで出る残渣をもらって利用しています。手間はかからない方が良いですが、美味しいものを作るため、土にはこだわっています。そのためにも、ほかの部分でいかに楽ができるか考えています」。

最後に「安心して食べてもらえるものを作っています。自慢の野菜をぜひ味わってください」とメッセージをいただきました。